

札幌国際センター・帯広国際センター

北方圏センターが行う、JICAの国際センター（札幌市・帯広市）に滞在する研修員等が参加する様々な行事等をこのコラムに掲載します。

夏恒例の行事

「世界のともだち」（帯広）、「白石ふるさとまつり」（札幌）

7月4日（日）10時半から午後3時まで、帯広国際センターで「世界のともだち2010」が賑やかに開催された。研修員、留学生、在住外国人はもちろん、2,300人ほどの一般市民が来場して夏の行事を楽しんだ。

森の交流館のサマーガーデンや国際センターラウンジを会場に、歌や踊りのステージやゲーム、世界30カ国・地域の料理などが並ぶ屋台、カフェや民芸品を展示するNGOブースなど多彩なイベントに訪れた市民が外国の人たちとの交流を楽しんでいた。

（世界のともだち実行委員会主催）



「世界のともだち2010」

7月17日（土）の夕方から、JICA研修員が白石区の「ふるさとまつり」に参加し、区民とともに盆踊りを踊り、イカ焼きやビールなど出店の食べ物を楽しみ、地域の人たちと交流した。



「白石ふるさとまつり」(JICA札幌の研修員たち)

事前にお盆の説明を聞くなどし、子ども盆踊りの時間から夜遅くまで踊りの輪に加わって日本の祭りの雰囲気を楽しんでいた。会場では地域の人たちに踊りの手本を示してもらって後について踊るなど市民とのふれあいを楽しんでいる様子が見られ、ささやかな国際交流の輪が広がった一夜であった。

（白石区ふるさと会主催）

イベントレポート

(社) ガールスカウト日本連盟北海道支部

ジャナグル ダンス & ミュージック コンサート

日本ガールスカウト連盟は今年設立から90年目を迎えます。北海道支部では、活動を人々に知ってもらうことを目標につつ、世界を知ろうと学習を続けています。

90周年記念事業の一つとして、異文化やアフリカに関心を持ちさらに世界に視野を広げるきっかけになるよう、



7月4日（日）に、札幌のポルトホール（北翔大学北方圏学術情報センター内）でアフリカ・ジンバブエの民俗音楽グループ「ジャナグル・ジュニア」を招いて「ジャナグル ダンス&ミュージック コンサート」を開催しました。このグループのメンバーは、ジャナグル・アートセンターで伝統楽器による伝統音楽と踊りを学んでいます。同センターは、小樽市出身で24年前からジンバブエで暮らしている高橋朋子さんがジンバブエの子ども達が自国の伝統音楽を学べるようにと2009年に開設しました。



ジャナグル・アートセンター代表 高橋 朋子さん



ンピラ（カラバウというカボチャの中味をくり抜いて乾かし、金属製の爪を板に固定。澄んだ爽やかな音がする）やングマ（乾燥した牛の皮を張った太鼓）、ホシヨ（マラカス）を演奏しながら、音楽を指導するマルンガさん、踊りの指導者、シマンゴさんと、ムナシェ君（15歳）、タテンダ君（11歳）、そして最年少のティチャファラ君（7歳）の5名が、ムームー（牛の鳴き声の歌）、ダンデ（誇り高い人たちが住んでいる所へ少年少女たちよ行こうと歌う）、チャムテングレ（馬車は御者がいるからではなく、車輪が動いて走ると歌う）などユニークな歌を歌い、踊りを披露してくれました。

後半は魂に取り憑かれた人の踊り、収穫や結婚式の踊り、雨乞いの儀式的歌と踊り、ホシヨと馬の尾を両手別々のリズムで振りながら踊るホソなどが舞台いっぱい演じられ、最後はガールスカウトたちも参加してみんなでジャンガラを歌い、踊ってフィナーレを飾りました。